

令和元年度第2回県・市町村行政懇談会 議事録

日時 令和2年1月20日(月)

午前10時から11時まで

場所 ホテルニューオータニ「鳥取」

1 開会

(司会 加藤令和新時代創造本部長)

これより、令和元年度第2回県・市町村行政懇談会を開催させていただきます。まず、開会に当たりまして平井鳥取県知事が御挨拶申し上げます。

2 開会あいさつ

(平井知事)

皆様、明けましておめでとうございます。

本日は、石田倉吉市長様、また宮脇町村会長はじめ市町村の皆様には、東中西それぞれたくさんお集まりいただきまして本当にありがとうございます。

皆様のおかげで、また新しい令和2年という年をつつがなく始めることができいております。

これから、私たちは、共通する課題として、新しい年度にどのような事業を展開していくのか。とりわけ、地方創生という呼び声がかかっていますが、それが節目の年を迎えました。私ども県もそうではありますが、市町村におかれましても、地方創生の計画の練り直しという時期になってきております。ここにきまして、消費税が引き上げられた関係で、全世代型社会保障ということが始まりました。それにより、今、保育料の無償化が進むこととなり、これまで私たちが、市町村と県とで力を合わせてやってきたことに、国が今追いついてきているような形であります。そうすると、私どもは、移住定住を促進するためにも、地方創生の推進に向けて、子どもたちの施策、鳥取県の特徴ある施策というものを、さらに前に一歩進めることで、他地域との差別化を図っていく必要があるのではないか。また、国が所要のお金を出していくということもありますので、それを活用することで、私たちには、それだけ若干の力もあるかもしれない。このように考えているところであります。

さらに今、地方創生を語る上で、中山間地という問題を我々は抱えています。

特に喫緊の課題として、交通について、非常に困難な課題が見え始めています。ここにいらっしゃる町におかれましても、バスの運転事業者の確保に苦労しているところがありますし、また共助交通などを始めておられるところがあったり、他方でバスの運転の自動化を実証実験されたところがあったり、いろいろでございます。やはり、それぞれの地域で工夫をしながら、打開策を見つけていく必要がありますが、画一的なルールや補助制度だけでは駄目ではないだろうか。鳥取県、県政としても、市町村のご意見をお伺いしながら、方向転換を図って参りたいと思います。いずれも、市町村長の皆様と、私ども県政との共通の課題でございます。

正月は明けましたけれども、天候の不順も続いておまして、昨日は矢部若桜町長が雪乞いをされたそうでございますけれども、そのようにちょっと見通せない年もあるということかもしれません。ですが、この鳥取県におきまして、市町村の皆様と県とで力を合わせることで、事態の打開を図り、数々の課題に立ち向かっていくことができるのではないかと思います。ぜひとも、皆様のご忌憚のないご意見を賜りまして、前進をさせることができればと思います。

「膝に来て 模様満ちて春着の子」中村草田男という方の句であります。

正月、春着を着て、にぎやかな様子を見せる、集まった、家族の子どもたち、そんな情景が描

かれているわけでありますが、そういうように鳥取の場合は、各地に出ていたお孫さんやお子さんが帰ってくる。そんな季節だったと思います。これから、若い方々が元気を持って暮らせるように、またお年寄りも安心して、医療、或いは買い物ができるように、交通だとか様々な施策を整えていければと思います。

皆様のますますのご健勝と、それぞれの市町村政のご発展をお祈りを申し上げまして、挨拶とさせていただきます。今日はありがとうございます。

(司会 加藤令和新時代創造本部長)

続きまして、県市長会の石田倉吉市長様から一言ご挨拶を頂戴したいと思います。よろしくお願いいたします。

(石田倉吉市長)

おはようございます。

市長会長の深澤鳥取市長さんをご都合によりご欠席ということですので代わりましてご挨拶をさせていただきます。

県の皆さんには日頃から我々市町村に対しまして、格別のご支援いただいておりますことにより感謝申し上げたいと思います。

今日は、久方ぶりの行政懇談会ということでありまして、今、ちょうど予算編成の時期でございます。市町村は、本当に多くの課題を抱えております。非常に厳しい財政状況の中で、苦勞しながらも予算編成に当たっているところでございますけれども、そういう中での、今日の懇談会ということでありまして、様々意見交換させていただいて、実りある会議になれば思っているところでございます。

今年は穏やかな年明けになりました。穏やか過ぎて雪は降らないと困っておられる所もあるわけでありまして、近年本当に災害が多く発生をしておりますので、ぜひ、今年こそは穏やかな1年になれば願っているところであります。本当に災害に振り回されるばかりの時代でありますけれども、今日は、子育てと交通ということで、テーマを設定をさせていただいております。高齢化、人口減少が進む中で、本当に様々な課題があるわけでありまして、その中でも、特に、喫緊の課題になっているのはこの二つのテーマだろうと思います。ぜひ、多くのご発言をいただいて、実りある会になりますようご期待申し上げて、私の挨拶とさせていただきます。

今日はどうぞよろしくお願いいたします。ありがとうございました。

3 意見交換

(司会 加藤令和新時代創造本部長)

意見交換に入らせていただきたいと思います。

まず、本日の議題2項目につきまして、事務局より簡単にご説明をさせていただきます。

(木本子育て・人財局長) <資料1-1 全国の一歩先行く子育て支援策について>

子育て支援に関しまして、市町村と共同で進めていきたい事業、二つの事業につきまして、ご説明をさせていただきます。

一つ目が高校生通学費助成でございます。

高校生になりますと、経済的負担が一気に大きくなりますが、特に遠方の学校に通学しておられる生徒の通学費につきましては、保護者にとって大きな負担というところでございます。そこで高校生の通学費につきまして、1人当たり7,000円を上回る部分につきまして、県と市町村と

で2分の1ずつ助成をする制度を創設してはどうかと考えております。また、市町村によりましては地域の実情に応じて既に少額の通学費でも、補助をしておられるところがございます。先の7,000円を超える部分と合わせまして、7,000円以下の部分についても補助される市町村に対しましては、市町村が補助される額の4分の1を県が支援する制度を作ってはどうかと考えております。

次に、産後ママと赤ちゃんすくすく応援事業についてでございます。

産後は身体的、精神的に非常に不安定な時期でございます。場合によっては児童虐待や自殺にも繋がりがねないというところがございます。このたび国の方でも母子保健法が改正されまして、産後ケアの強化が打ち出されたところでもございます。より産後ケアを受けやすい環境づくりを行いたいと思ひまして、二つ挙げさせていただいております。

一つ目は、ケアを受ける側でございますが、産後ケアには個人負担がございますが、これを理由に、利用を躊躇される方もあるところがございます。この個人負担の部分を県と市町村とで無償化してはどうかと思ひます。

二つ目でございますが、受け皿の拡大に向けまして、施設整備の費用を支援する制度を設けてはどうかと、工事費等に対する助成をしてはどうかと考えております。

説明は以上でございます。

(広瀬地域づくり推進部長) <資料 2-1 新たな地域交通体系<<鳥取モデル>>の構築について>

持続可能な地域交通体系について、ご説明を申し上げたいと思ひます。

冒頭知事からもございましたが、従来はバス中心の制度だったり補助体系でもあったわけがございますけれども、持続可能なためには、地域の事情に応じて或いは地域住民と一緒になった交通体系への転換を図っていききたい、鳥取モデルとして考えているところがございます。

検討に当たりましては、各市町村からの意見も伺ひまして、行ったところでもございまして、大きく三つの柱を考えております。

一つ目は、タクシーの利活用ということでございまして、すでに各市町村においても、タクシー利用に対する助成を行っておられるところでもございますが、県においても、一定の要件、例えば、限界集落等に居住する高齢者等に対して支援補助を行って参りたいと思ひております。

二つ目の柱としましては、住民の共助による体系の構築、これに向けての支援を行って参りたいと考えております。イメージとして資料に書いておりますが、事業者が絡む場合、或いは、住民、組織等が主体的に行う場合、これらに対して支援を行っていききたいと考えております。

三つ目の柱としましては、住民ドライバーの活用にも関わって参りますが、配車であったり、運行管理に関して、システムを導入する場合もございまして、効率的な運用のために、そういった場合にも、支援を行っていききたいと思ひております。

大きくこの三つを市町村の皆様と共同で行って参りたいと考えております。

簡単でございますが以上でございます。

(司会 加藤令和新時代創造本部長)

ただ今ご説明させていただきました内容につきまして、事前に八頭町、北栄町からご意見を頂いております。まず、その2町からご意見も含めまして、ご発言をよろしく願ひいたします。

(吉田八頭町長)

最初に、子育て支援策をはじめ、本当に鳥取県の様々な施策に感謝申し上げたいと思ひます。ありがとうございます。

まず最初に議題1の全国の一歩先行く子育て支援策についてであります。来年度より、高校生の通学費助成制度を創設していただけるということでありまして、本当にありがたく思っているところであります。これまで、八頭町をはじめとしまして、他の市町村におきましても高校生の通学費助成を実施しているところであります。今後、申請方法でありますとかまた助成の方法につきまして、保護者の方、さらには各市町村が運用しやすい、活用しやすい制度にしていただければということでもあります。

次に議題2の持続可能な地域交通体系についてでございます。

現在、八頭町におきましては旧小学校区ごとに小さな福祉の拠点であるまちづくり委員会というものを立ち上げておりまして、高齢者の皆さん方の交流でありますとか、さらには、介護予防の健康体操などを実施しているところであります。ただ、高齢者の方の参加手段が少なく、苦慮しているのが現状でもございます。県におかれましては、この度、無償による共助交通の取組支援制度を整備され、推進されると伺っておりまして大変感謝をしているところでございます。町といたしまして、これから小さな拠点施設への計画的な車両配備を検討いたしておりますので、よろしくお願いをしたいと思います。

次に、バス・タクシーの関係であります。今日の資料にございます意見の通りでありますのでこちらについては省略をさせていただきます。

それから最後に、システム等を活用した交通体系の調査研究についてのお願いであります。交通事業者のドライバー不足等によりまして、タクシーの営業所の廃止でありますとか、早い時間に営業所が終了するなど、中山間地域の住民にとりまして、移動手段の確保というのが喫緊の課題になっているのが、今の状況でございます。今後、本日の資料にもございますが、システムのような住民ドライバーを活用した自家用有償運送のシステムの検討を行っていく必要があると考えておりますが、それぞれの自治体だけで調査研究をするのではなく、東・中・西部のブロックごとでの調査研究ができるような体制づくりといったものの支援調整を県にお願いできればと考えております。

(司会 加藤令和新時代創造本部長)

続きまして、北栄町長様、よろしくお願いたします。

(松本北栄町長)

いつも県には、いろいろお世話になっておりましてありがとうございます。

また、今回は子育て支援策について考えていただいているということで大変ありがたく思っているところであります。産後ケアの無償化事業ということで、利用者負担をなくそうと提案をしていただいているところであります。既に市町村は、事業に対しては一定額の負担をしているところで、国と市町村がそれぞれ2分の1ずつ負担しているということでもあります。その残りの利用者負担分をゼロにということで今お話がされているところであります。そういう状況でありますので、残りの経費を折半ということになれば、また、市町村の負担も増えてくるということもありますので、ぜひ、そういうことのないようにしていただき、無償化されるのであれば、市町村と県とで2分の1ずつという形、或いは利用者の方の負担分については、県負担することをお願いできればと思ったところであります。趣旨としては、よくわかるわけではありますが、そういうことをお願いできればと思っております。

(司会 加藤令和新時代創造本部長)

今、2町長様からいただきましたご意見も含めまして、皆様の方から順にご発言をお願いした

いと思います。まず、倉吉市長様、いかがでございましょうか。

(石田倉吉市長)

産後ケアと地域交通の関係で発言をさせていただきたいと思います。

産後ケアも必要な事業だろうと思うのですけれども、受け皿がまだ不十分ではないかと思っ
ています。中部では、一つの施設しか今対応できるところがなく、倉吉市も事業をやっていますが、
キャパシティが小さいもので、こうやって無償化をしてどんどん来てくださいというだけのキャ
パシティがない状況です。今回も事業所を増やす事業も入れていただいています、それを急い
でやっていかないと、本当に必要な人がむしろ利用できない危険性もあるので、この点をセッ
トでうまくやっていかないといけないのではと思っていますので、これは我々も努力しないとけ
ない部分もあると思いますが、よろしくお願いをしたいと思います。

それから、交通の問題ですけれども、これは一方で交通事故防止対策として運転免許の返納を
やっているのですが、免許返納した後の対策を考慮しておかないと、特に中山間地の問題として、
バス路線がないところは免許返納したけれども買い物難民になってしまったということになって
しまう危険性があるわけで、その部分を共助交通などでカバーしていかないといけないと思っ
ています。同じ形でなくてもいいと思いますが、倉吉でも来年度事業で、地区ごとに共助交通の
あり方を考えていきたいと思っています。倉吉では、もともとNPO高城が共助交通の取り組み
をしておりますけれども、ドライバーの確保が難しくなってきました。そういう点も踏まえ
て、地区ごとにいろんなパターンの取組ができるようにご支援いただけるような、柔軟な制度を
作っていただくようお願いしたいと思います。

(司会 加藤令和新時代創造本部長)

ありがとうございます。矢部若桜町様お願いします。

(矢部若桜町長)

最初に若桜駅の台湾との姉妹提携つきまして、県の皆さんには大変ご協力ご支援いただきまし
て本当にありがとうございます。無事、終了することができまして、今後継続して交流を進め
て参りたいと思っておりますので、またご指導のほどよろしくお願いいたします。

では、子育て支援策についてでございますが、高校生の通学費助成事業、若桜町にとっては大
変ありがたい事業だと思っております。現在、1人につき1月1万円の助成をしておりますが、
やはり高額な費用が発生している保護者もございます。そういう方にとっては本当にありがたい
という声を聞いておまして、すぐにでもやっていただきたいという申し出もいただいていると
ころでございます。

子育て支援でございますけれども、ここにはないですけども、いよいよSociety5.0、5
Gの導入ということで、タブレット1人1台という補助事業が、今、補正予算であがってきてい
る状況でございます。できるだけ早くこの環境整備に取り組んで参りたいと思っておりますが、
やはり私は学校だけの環境整備ではなくて、各家庭で使える環境整備というものをやっていく必
要があると思っておりますので、ぜひまたこちらの方についてもご支援をお願い
したいと思います。

続きまして、交通体系につきましては、ちょうど今、若桜町はバス廃止が近づいてきておりま
す。そういう中で、地域別の住民コミュニティタクシーというものを創設しようということで今、
町内でいろいろ話をさせていただいております、ちょうどこの事業にマッチするような内容で
ございますので、ぜひまたご協力をいただきながら、そういう、組織を作り、町民の移動手段を

守っていきたいと思います。

そしてもう1点買い物支援でございます。こちらにつきましても今、移動購買車が走っていますが、経営をしていくのがかなり難しくなってきていますので、こちらの維持につきましても、またご相談をさせていただきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

(司会 加藤令和新時代創造本部長)

ありがとうございました。寺谷智頭町長様、よろしくお願いいたします。

(寺谷智頭町長)

少しこの場にふさわしくないかもしれませんが、私がずっと今まで地方創生というテーマを考えてきた時に、果たして本当に国の言う地方創生というのをまともに受けていいのかなと正直思います。

一つの例は、今回、病院の問題がいきなり厚生労働省から出てきました。智頭病院も対象ですが、地方が疲弊しているから地方を何とかしなきゃいかんっていうスタートの中で、いきなり上から目線で、小さい病院はもういいのではないかというような言い方で、本当に地方がわかっておられるのかなと。あの件を見まして、私は、正直言って愕然としました。ということは、国の言う通りに動いていたら、何か少しおかしいじゃないかなと。そういう意味では、この今日の会は、知事がリーダーシップをとっていただいて、いわゆる鳥取県らしい生きざまをという会だと思うのです。その中で、各市町村がそれぞれの自分の地域を、地方創生とは少し別の意味で考えて、あと地方創生で、もし何かというと、お金を頼りにするぐらいの気持ちでないと、あまり国の言うことばかり聞いていたら、金太郎飴になってしまうんじゃないかと。みんな同じことをやっている。そうじゃなくて、やっぱり自分の町の歴史、生きざま、智頭町は93%山しかありません。東京のまねをしようと思ってもできないわけです。だからそんな、地方創生で、本当に地方がわかっておられる人がどれぐらいいるかなと。そういう不満を実は持っております。

そういう中で、一步先に行く子育て支援という、これがまさに、地方創生に頼らない、いわゆる鳥取県の知事の思いの中の独自性ということで、やはりこういう生きざまをしていかなければいけないということを本当に強く感じさせていただいています。高校生の通学費助成の件については控えさせていただきます。智頭町もやっていますし、それぞれ町によって違うかと思います。それから産後ケア無償化事業ですが、生まれてからというのではなくて、命を授かるということはどういうことか、これをしっかり子どもができる前に教えておかないと親が育てられない。赤ちゃんは夜中でも、朝でも泣きますから、若いお母さんお父さんは、育て方がわからないから、うるさいなんていうことで、手が出てしまうという悲惨な状況がどんどん増えています。ですから、智頭町は、5年前から、命を授かるころから、妊娠をして子どもが生まれてその子どもをどう育てるか、そしてそれを今度は教育に結びつけて、例えば、自然の中で子どもを遊ばせる、町の93%が山しかありませんので、そういう中で子どもを育てたいという、揺りかごから墓場までの施策をやっていくということで、今まで続けています。お金がないものですから、国に頼るのではなくて、個人や企業に、全国的に声をかけています。中には2,000万円とか出していたり、これはいい事業だから応援するぞという、そういう方も出ているんですね。あと10万円とか100万円とかいろいろですが。我々が、子どもの命を授かるころから、老後になって死ぬまでの揺りかごから墓場までのトータル的な問題を考えないと、国は考えてくれないのではないかなと。

今日は、少しマイナスのことばかり言いましたけども、やっぱり鳥取県だけでみんなで一緒に鳥取県らしい生きざまを私はものすごくすごいことだと思っていますので、逐一この項目につ

いてはお話しませんが、この会があってよかったと、本当にしみじみそういう感じをしております。

(司会 加藤令和新時代創造本部長)

はい。ありがとうございました。松浦三朝町長様いかがでしょう。

(松浦三朝町長)

それでは私の方から、初めに通学費助成のことをお話しさせていただきます。本町の場合は、4年前から高校生の通学費助成をしてきております。その中で、今回県が提案されております通学定期の助成というの、いろいろ含めて議論をしてきた結果、全高校生に対して助成をするという形で、運営をしております。それで、この制度も高校生のためには非常にいいとは思いますが、できれば、今の町の制度等が上乘せといいますか、選択制にして、取り組んでいきたいという気はあるのですが、それを仮に7,000円以下の助成までやるとしたら、今、町が400万円ぐらいの予算なのですが、100万円強の町の持ち出しが出てくるということもあります。もう少し検討していきたいと思います。これまでの町の制度が、これを入れることによって崩れてしまうという懸念も少しございますので、何とか前向きには取り組んでいきたいと思っております。

それから、交通体系ですけど、今、町の方で、協議会で議論をしております、3月いっぱい、その方向を示すようにしております。新年度にどういう形になるかわかりませんが、試験運行でも、場所を決めて実施をして、三朝町に合う形の交通体系を作っていきたいと思っておりますので、ご支援いただきますようよろしくお願いいたします。

(司会 加藤令和新時代創造本部長)

はい。ありがとうございました。宮脇湯梨浜町長様いかがでしょう。

(宮脇湯梨浜町長)

最初の子育て支援策について、高校生通学費助成の件ですけども、考え方としては7,000円を超えるところからさらに下げて、4分の1の支援ということで、先ほど三朝町長さんのお話にございましたけれども、各町がもともといろんな支援の仕方、措置をとっているところに、制度設計するのは難しいということは当初から知事もおっしゃっておられましたし、その通りだったのですが、このように、7,000円以下のところにも手を差し伸べることができるということで、自分のところの施策と共通してというか、組み入れながら実施することができるようになったと理解しております。ありがとうございます。

次の交通弱者問題ですけども、新たな交通体系ということでございますが、これにつきまして実は、昨年、福祉部局の方で、65歳以上の町民5,069人の方にアンケート調査を実施しまして、3,569人ということで、70%以上の回答があったわけですけども、その中で16の項目、例えば自分が普段不安や困っていること、片付けですとか、買い物ですとか、預貯金の出し入れですとか16項目挙げてアンケートをとったところ、その16項目の中で解決できずに困っていると言われた人に対して、どのように解決されているかということ聞いて、その上で困っていると言われた人、依然、困っていると言われた人は、実は3人しかなかったということです。私も議会でこれまで何回か、買い物難民ということで質問受けていたりしてはいますが、実態はどうかということを押さえてそこに必要な手だてをしようということになれば、やっぱり幾つかのバリエーションとかそういうものを勉強しながら、考えていかないといけないと思っております、現状としては、3人とのことですから個別的にもできるようになると思いますし、社会福祉

協議会の会費制による買い物バスですとか、或いは近所の方々、家族はもちろん、地域の方たち、そういう方たちがいろいろ配慮しあって行われていると理解しております。ただ、これが、その次の2040年問題ということをご想定しますと、どうしても避けて通れない、急な課題になってくると認識しております。この段階できちんと検討の上に追加していただくことはとてもありがたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

(司会 加藤令和新時代創造本部長)

ありがとうございました。小松琴浦町長様、お願いできますでしょうか。

(小松琴浦町長)

高校生の通学費助成と地域交通のことについてお話をさせていただければと思います。

地域交通については、琴浦町は、昨年、バスの関係でいろいろと苦労したところで、この1年、県の支援をいただいて、いろんなやり方も出来るということをご検討させていただいているところです。高校生の通学費助成の時に、あまり連動を考えていなかったのですが、うちの場合、米子と倉吉の両方に行くものですから、JRのことだけ考えていたのですが、実は倉吉駅から、倉吉西高校だとか倉吉農業高校にどうやっていくのだろうということをご考えたときに、路線バスを使っているのかどうかといったときに、保護者が自家用車で送り迎えしているという実態だったようです。ただ、今回この制度を利用させていただいて、公共交通を使って、バス路線を維持していくという目的が出てくるのではないかとということで、倉吉駅からとても距離があるところ、これは自転車ではとても大変ですので、バスを使って定期券を使って、保護者の自家用車ではないやり方、やはり自家用車に頼っていることはドアツードアの生活をしているということで、それを少し解消していく一つのモデル事業という形で、大いに期待しているところであります。

(司会 加藤令和新時代創造本部長)

ありがとうございます。竹口大山町長様、いかがでしょう。

(竹口大山町)

まず、高校生の通学費助成に関しましては、県の方で、とてもいい制度をさせていただいて、非常に感謝しております。大山町では、一昨年から独自で制度を作ってやっております。今までの協議の中では、7,000円を超えた部分に関しての助成ということでしたけれども、7,000円以下の部分に関して市町村が助成する場合に、県の方で支援いただけるということで、助かっております。ただ、八頭町からもありましたけれども、申請方法に関して今まで町村独自にやっておられるところ、うちも含めてあると思います。それで、住民の方からしますと、今までと申請方法が変わるということになると非常に利便性が悪くなると思いますので、申請方法は、なるべく、市町村にして、市町村がまとめて県に申請するという形ができれば、利便性がそのまま、補助が拡充されるという形になろうかなと思っております。

それから、産後ケアの事業に関してですけれども、これも今大山町でも独自で助成をしております。また、アンケート調査等も毎年行っていますが、いろいろ聞いてみますと、この産後ケアの利用が進まない理由として、利用料が高くて利用しにくいというような声が、一切、今のところは出てきておりません。県の方で、何か調査をされて、個人負担部分がゼロになれば、利用が高まるということであれば、是非ともやらせていただきたいと思っておりますが、これは北栄町からもありました。今独自で助成をしているところに関しましては、個人負担部分の2分の1を市町村と県とで負担ということになれば、町の負担が増えるということで、効果がどの

程度伸びるかというところで、取り組むかどうか、少し検討しなければいけないかと思っておりますので、できれば個人負担部分を県で全額負担していただく、或いは、国費を除いた部分の今までの市町村負担部分を含めて個人負担と合わせて県と市町村で2分の1の負担とするような制度になれば、是非とも利用していきたいとは考えています。産後ケアも確かに重要ですが、大山町では、それ以上に家族の支援が得られず支援が必要だと思っております。訪問ケアを無償で行っております。産後デイケアの利用も確かに促進をしていますが、それ以上に支援が必要だという方に関しては、訪問ケアを積極的に進めるように取り組んでいるところであります。

それから、地域公共交通の件ですけれども、これは今、共助交通にしましても、貨客混載の取組にしましても、県に非常に支援をいただきながら取り組んでいるところであります。国の制度にも乗って、貨客混載等やっていこうかと思っており、国土交通省と内閣府の地方分権改革推進室と、いろいろ協議をしながらやっていますが、内閣府の地方分権改革推進室の方は非常に市町村の声を代弁するかのように協力してくれているのですが、国土交通省の方は、いろいろと法律があるとか、これはできないとか、それは駄目だとか、いろいろ言われますので、引き続き県の方にも協力をいただきながら、新たな制度を作っていきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

(司会 加藤令和新時代創造本部長)

ありがとうございました。では、陶山南部町長様、お願いします。

(陶山南部町長)

私は、公共交通について申し上げます。

令和3年の春から、日ノ丸バスが、運転士不足を理由として、南部町がやっておりますコミュニティ交通の維持ができないということで、先月あたりから騒ぎ始めています。町民の皆さんに会う度に、新年早々その話をし、とにかくドライバーをどう確保していくのかがポイントだという話をしてきました。知事が昨年の暮れからこの話をされているということも含めて、大変期待をしているところでございます。

特に高齢者のクレジットカードがない、とにかく現金を使いたい、スマホをお持ちにならない、このあたりをどういう具合に組み合わせながら、南部町の中の交通体系を維持していくのか、移動手段を確保していくのかということが課題です。

それから、南部町の11,000人の中で実際に利用されている方が、延べ50人しかおられないということ。公共交通を守ろうといっても、実際に使われる方が極めて限られているということも聞いたこともあります。あらゆる方法をとりながら、1年間の中で試したいと思っておりますのでぜひともご支援をお願いしたい。

もう1点。若者が約100人集まって、成人式を行いました。この若者達と話をすると、若者達も喜んで東京で暮らしたいと思っははいないわけです。しかし、鳥取に帰った場合の収入では、やはり、暮らしていけないと思っはいるわけです。300万円が結婚するためのキードと言われて久しいですが、300日働いて、300万とすれば1日1万円。そうすれば1時間当たり1,250円という労働単価というものを、本気で若者達に、この地域で払う気があるのかということが、やはり私は大きなポイントだろうと思っはいます。商工会の集まりの中でも、実はそういうことを申し上げました。事業承継するのであれば、本気で若者たちに300万円のお金を払える覚悟がない限りは、事業承継が非常に厳しいわけです。そのために、あえて本当にいろいろな中小の企業が力を合わせながら、将来的には合併してでも地域の中で残るということを、批判覚悟で申し上げました。しかし、本気であるということを上げられたところでは、皆さん、本気で考えてい

こうと、全くその通りだと、給料を確保できない中で、若者に、町や県内に残ってくれというのは、これは本当無理だな、結婚し子どもを育てるのは無理だなという具合に思ってもらったような感触を持ちました。ぜひとも、知事のリーダーシップを持って、県内の賃金をどうやって上げていくのか、若者たちが本当に暮らしていける賃金を目標にするためには、かなりの覚悟を持って臨まないといけないことだろうと思います。まさに政治家の出番だろうと思っていますので、ぜひ強いリーダーシップを持って、私ども覚悟をもって臨もうと思っていますので、ぜひよろしくお願いいたします。

(司会 加藤令和新時代創造本部長)

ありがとうございました。それでは、森安伯耆町長様、お願いできますか。

(森安伯耆町長)

高校生の通学費助成について、なかなか解決策というか、出口が本当に難しい。こうやって取りまとめをしていただいたことについては、私はありがたいと思っています。ただ、私個人としては、出発点は、高校教育についての教育の機会均等という観点があったと思っていたので、その点、担当部局が子育て・人財局で落ち着いたのでしょうかけれども、私としては、若干そこについては、違和感とまでは言わないけれども、子育て支援策としてとらえるべきだったのかなという疑問点は今でも残っております。制度としては肯定します。

産後ママ赤ちゃんすくすく応援事業は、大山町長がおっしゃった通りの問題意識を私も持っております。

地域交通ですけれども、これは、前提がかなり大事だと思っていて、路線バスの維持ができないと、その通りです。ドライバーもおりません。ですから路線バスが廃止されていくときに、どういう地域交通体系を取ろうかということの検討だということであれば、そう言っていただきたいです。既に、路線バスの縮小が続いている中で、地域交通というかコミュニティバス、といいますが、現実には乗り合いタクシーのような形での運行をしているのが実態であり、私のところも、乗り合いタクシーデマンドバスと言っており、乗り合いタクシーに近い状態のデマンドバスは、バス停の数としては200ヶ所を超えており、ドアツードアというか送迎タイプではないにせよ、非常に細かな運行をしているので、そこがセダンタイプまたはワンボックスタイプのタクシー事業者のタクシーに変換していくというような、今やっていることと違うのかなと町民の方に捉えられる可能性があり、それは町として歓迎できず、212ヶ所のデマンドバス、いわゆる乗り合いタクシー的デマンドバスの制度を維持するというのが、私としては第1順位ですので、民間事業者のタクシー利用ということについては、ある意味、こういう地域でこういう条件でということをお願いいただいた方がありがたいということです。

(司会 加藤令和新時代創造本部長)

ありがとうございました。中村日南町長様、よろしくお願いいたします。

(中村日南町長)

最初に通学費助成の件ですけれども、2年前から町としてもやっておりますが、一つうちの場合は、通学以外の寮とか下宿の助成という仕組みがありまして、そこには少し補助をさせていただいているという状況があります。町の地理的な条件もあり、15%ぐらいの者が寮とか下宿をされていますので、できれば、県の方も、その辺りへの支援をご検討いただくとありがたいと思っております。

産後ケアの件ですが、町では、小児科の医師と該当の皆さんとが月1回、何でも話ができるというところを作っております。ドクターと医療的な見地でのちょっとした質問や困っていることを話し合える場があって、良いと私自身は思っております。

地域交通ですが、いろいろな流れをしてきておりますが、一人暮らしとか高齢者が多くなったり、或いは今年は積雪がないですけれども、普段はたくさんあるという状況の中で、最終的に求められているのがドアツードアなのかなと思っておりまして、デマンドバスとか、或いはタクシーの助成もしてきておりますが、なかなかタクシーの方も、少しずつ時間的な制限が出てきたりというところが始まっております。先般まちづくり協議会の懇談会をある地域でしましたけど、やはりここに書いてありますように、もう住民ドライバーの取組を絡ませていかないと多分できないのかなというような状況がありまして、ちょうど今まだいろんなところが検証しながら、今後の展開として、この方法を取り入れていきたいと思っておりますので、どういう形が一番いいのかということについて、また県のご指導を仰ぎたいと思っております。

(司会 加藤令和新時代創造本部長)

ありがとうございました。市町長様からいろいろとご意見いただきましたけど…。
では、北栄町長様。

(松本北栄町長)

地域交通について、一言、意見を述べさせていただければと思います。

今、北栄町では、公共交通の空白地帯について、タクシー助成を既に4、5年前からやっております。ドアツードアということで大変喜んでいただいております。たくさんの方が利用されています。幸いに、中部は、まだタクシーの運転手さんが確保できるということで伺っております。当分続くのかと思っております。今そういうことを計画しながらやっておられるところには助成するというようなことが昨年もあったわけですが、ぜひ、今までやっているところにも助成していただきたいと思っております。それから、介護施設が、朝晩の送り迎えにワゴン車を利用されますが、それが終わると、その車は使うことなく休んでいるということでありまして、その車を使って、今、介護事業者の方と住民の方とで買い物に行こうという取組を進めておりますので、ぜひそちらの方にも、またいろいろ、ご指導等していただければありがたいと思っておりますので、よろしく願いいたしたいと思っております。

(司会 加藤令和新時代創造本部長)

ありがとうございました。皆さんからいろいろご意見いただきました。
知事から総括的にお願いしたいと思っております。

(平井知事)

一通り皆様のご意見本当にありがとうございました。

基本的には、当方で示させていただいた原案のスキームを受け入れていただけたかなと思いますが、いろいろとお話もございましたので、結論から言えば、今日のお話を入れながら、最終的な細かい調整をさせていただきまして、市町村の皆様の使い勝手の良い制度とさせていただければと思います。

通学費助成については、いろんなやり方を今もやっているということでございまして、今の申請のやり方を尊重していくべきだという意見もありましたが、その通りだと思います。これから細部を調整しますが、現行やっておられるところは、移行しやすいようにさせていただきたいと

思います。実は、これまでの協議の中で、一定の通学費がかかるところに助成する方がいいというご意見も結構強くございまして、7,000円という目安も作りましたけれども、他方で、少額でも助成しているところもおありだということですから、それも、やり方は変わりますが対象とするということで負担軽減を図るという妥協案で示させていただきました。おそらくこの中に、今日のお話は入ったかなと思っているところでありまして、あとは申請方法等、活用しやすいようにさせていただければと思います。

また、産後ケアについてでありますけれども、ご意見が多かったのは最終的な負担の軽減の方を県でやってはどうかという、これで調整つくのではないかというお話でございまして、少しその方向で最終案を検討させていただきたいと思います。国の助成制度がございまして、皆様もご案内のように、令和3年度から市町村の方に努力義務的な義務付けがされます。ただ、措置が必要な子ども向けのものでございまして、全部の子どもに対してという国の制度ではありません。ただ、そういう何らかの措置が必要な子ども向けの制度として、まだ乗りにくいという声もございまして、それで負担緩和ということを考えているわけでありまして、ただ、目一杯国の制度も使って、適正な負担という範囲内であれば、県の方で負担をすることによって、市町村の制度と調和を図るということも可能かもしれません。少し最終的に調整させていただきたいと思います。

また、共助交通について、例えばデマンドバスであるとか、コミュニティタクシーであるとか、あるいは介護施設のバスの使用だとか、いろんなやり方があると思います。それを排除することなく、全部取り組むような形で、今後も制度を作らせていただきたいと思います。基本的には従来のバス路線中心から一歩踏み出して、皆様のそれぞれのやり方に沿った形ということを考えています。車両の整備のこと、あるいは人材の育成のことも、別の制度適用も含めていきたいと思っておりますし、また、ウーバーのようなやり方が適切かどうか、例えば、現金しか持っていないとか、スマホがないとかいうようなこともあります。ですから、それぞれの地域で、配車などがやりやすい、そういうシステムを応援させていただきたいと思っております。また、広域的にやりたいというご意見もございましたので、東中西という枠組になるか、あるいはバスやタクシーが撤退するようなところを中心でやるか等々いろいろあるかもしれませんが、共同的なシステム利用についても、県も少し考えていきたいと思っております。おそらくそんなにたくさんのケースがないのだと町村会長もおっしゃいましたけれども、いろいろと地域の工夫ということがあると思っておりますので、それらを全部引き継いだ形でさせていただきたいと思っております。

また、産業の振興のことであるとか、あるいは病院の問題のことであるとか、鳥取らしい取組についてのお話でございました。地方創生に関わることであろうかと思っておりますが、ぜひ協力してやっていきたいと思っております。

(司会 加藤令和新時代創造本部長)

ありがとうございました。

皆様の方でいろいろご意見いただいたところでございます。最後に、県の町村会長の宮脇町長様からご挨拶をいただきたいと思います。5分ばかり時間でございます。地方創生のお話、智頭町長様からの鳥取らしさのお話もございました。次の地方創生に向けた重点的な取組事項など、市町村の方でこれは重要だなと思うことがございましたら、どなたかご発言をいただけたらありがたいなと思います。県としても次期戦略の参考にさせていただけたらと思います。どなたかございませんでしょうか。

琴浦町長様、よろしくお願いたします。

(小松琴浦町長)

今の質問ではない話を少しさせていただきたいと思います。琴浦町では1月8日に、風力発電用風車の羽根が折れました。なぜ折れたかということについては、これから調査して、中間報告が上がってくるということで、話は今進んでいるところで、今日ではほぼ三つの羽根を下ろすことができるのですが、その報告の内容について少し専門的なことも出てくるかと思いますが、県に報告の内容が良いのか悪いのかという判断のアドバイスをいただきたいということと合わせて、風車は近隣の市町村にもありますので、なぜ折れたかということについて、県の方から関係市町村にも、こういう報告が出ているということを情報共有していただければと思います。県も企業局で風力発電用風車を持っていらっしゃると思いますので、少し異常な折れ方をしたということで、技術的なアドバイス、支援をお願いしたいと思います。

(平井知事)

はい、その通り対応させていただきたいと思います。今、事業者側には運転について協議をするように、また安全の取り決めということも必要ではないかと話をしており、事業者の方も応じる構えでありまして、報告書をまず出してもらった時に、県も一緒に審査といいますか入らせていただき、最終的にはそれで良とするかどうかは、町の方と一緒にゴーサインを出すなり、そういう体制を取らせていただきたいと思います。また、実はこういう風力発電や、あるいは最近では太陽光発電でも地すべりの事象なども起こっております。ですから、自然エネルギーについての安全のあり方について、市町村とも情報共有を図ったり、国の方にも安全対策の働きかけをしておりますが、継続させていただきたいと思います。

(司会 加藤令和新時代創造本部長)

北栄町長様、どうぞ。

(松本北栄町長)

今、風力発電の件が出ましたけど、わが町にもあるわけでありまして、他人事ではないと思って話を聞いているわけでありまして、こういう事故が起こると経済産業省から厳重な調査をやられます。全国の風力発電所にそういう通知が来まして、こういうことをやっているかということをやられます。わが町も2月27日に現地調査ということで経済産業省から来られていろいろ調査されることになっており、原因が分かれば、それに対応するような策をやらなければならないことになっておりますので、事故のないようにしたいと思っております。風速18、19メートルで事故が起こるといのが本当に不思議なことでありまして、従来では考えられないような事故だろうと思っておりますので、わが町のブレードも同じところで作っておりますので、しっかりと検査をして、対応してもらいたいと思います。

(司会 加藤令和新時代創造本部長)

時間も定刻に近づいて参りました。最後に、町村会長の湯梨浜町長様からごあいさつをお願いしたいと思います。

(宮脇湯梨浜町長)

本日は大変ありがとうございました。

一步先行く子育て支援ということで、高校生通学費助成等のお話もございました。県の町村会として要望しておりましたことが、このような形で、より広い考え方で、全対象実施すること、

支援の手を差し伸べることができる形を整えていただきましたことに心からお礼を申し上げたいと思います。

また、持続可能な地域交通体系についても、本当に重要な課題でございます。どこの町も避けて通れない道であると思っております。引き続き制度設計等について、あるいは現状やっていることの強化等について、また県のご協力賜ればありがたいと思っております。

鳥取県そして知事におかれましては、このような先進性を維持しつつ、住みやすく、魅力的な鳥取県づくりに引き続きご尽力いただきたいと思います。要望いたします。

どうもありがとうございました。

(司会 加藤令和新時代創造本部長)

それでは以上をもちまして令和元年度第2回県・市町村行政懇談会を閉じさせていただきます。お疲れ様でございました。